

Ⅲ 文化活動の状況

ここでは、市民会館、公民館、図書館及び体育館を除く社会教育の諸活動を述べます。この分野には、社会教育全般の事務と、文化財関係、青少年問題協議会関係の事務、事業があります。

1. 奨励、援助

市民の皆さんの行う社会教育の活動に対して、要望に基づいて各種の援助を行った。

(1) 社会教育関係団体の状況

63. 5. 22 現在

分類	団 体 名	責 任 者	会員数	組 織 及 び 活 動
少年 団 体	ボーイスカウト ガールスカウト 福生市連合育成会	代表者 森 田 治 男	名 266	カブ隊、ボーイ隊、シニア隊 福生第1団 福生第2団 訓練活動（キャンプ） 奉仕活動、リーダー研修
青年 団 体	福生市青年団体 連 絡 協 議 会	綿 貫 和 男	80	加盟団体 6 若い市民の講座、サークル活動補助、 広報活動
婦 人 団 体	福 生 生 活 学 校 連 絡 会	天 田 君 子	83	福生市あすなろ生活学校（子供の心） 福生生活学校（高齢化社会への対応） 定例的学習活動、消費者展、発表会
成 人 団 体	福生市文化連盟	小 林 菊 三	2,900	加盟団体 73 市民文化祭、文化教室 文化団体の育成活動補助、発表会
	福 生 ホ タ ル 保 護 研 究 会	古 屋 貞 雄	20	上水のホタル及びホタル公園のホタル保 護育成
	福生市立小中学校 P T A 連 合 会	伊 東 茂	世帯 5,582	加盟団体 10 球技大会、講演会、非行防止パトロール
	福 生 市 体 育 協 会	設 楽 清 一	4,100	加盟団体 16 定例会、各種スポーツ教室 市民総合体育大会 都民体育大会

2. 文 化 祭

第 19 回 福 生 市 民 文 化 祭

(1) 趣 旨

- ① 市内で行われている文化諸活動の成果の発表の場をつくり、今後の発展をはかる。
- ② 未参加者の文化諸活動への参加、各種活動の育成を促す。

(2) 主 催

福生市・福生市教育委員会・福生市文化連盟

(3) 実行組織

実行委員会構成

- ① 文化連盟役員
- ② 出展、出演団体の代表者
- ③ 教育委員会社会教育課・市民会館・公民館・図書館職員

(4) 期 日

11月3日(木)・4日(金)・5日(土)

6日(日)・12日(土) 13日(日)

(5) 場 所

展示関係 ― 市民会館、公民館、福祉会館、中央図書館

演示関係 ― 市民会館大ホール、小ホール

(6) 運営方針

- ① 同種目については主管団体が処理する。
- ② 個人及び団体、一般からの出展、出演についてはすでに主管団体があるものはその団体が、種目のない団体は、その団体が主管し、個人のものは教育委員会が主管する。

(7) 参加内容の限定

- ① 市民の活動であること。
- ② 市民を対象とした文化的事業であること。

(8) 参加対象

全市民(在住、在勤、在学の個人及び団体)とし、一人一点に限定

(9) 全般的事項

① 文化祭実施要項の決定

② 開場式 11月3日(木) 午前9時30分

市民会館 小ホール

③ 準備過程

ア. 広 報 (イ) 公募 7月15日、25日発行(広報、市のお知らせ)

申込締切り 8月19日

(ロ) 日程内容の周知

・ 広 報 10月15日 広報

・ ポスター 10月 1日 200部

・ 日程表の配布 10月中旬 8,000部

(小中学生及び主管団体)

(ハ) プログラムの作成と配布 3,000枚

イ. 案 内 状 総合プログラムと一緒に実行委員会で送る。主管団体毎の招待は各団体で行う。

ウ. 主管団体必要物品

(イ) 指定様式に記入提出

(ロ) その他の必要品

エ. 役員委嘱

実行委員に委嘱状を交付

オ. 委託料の交付

昨年度に準ずる。

(10) 実行委員会日程

第1回 8月19日(金) 午後7時30分 市民会館4・5集会室

ア. 文化祭実施要項等の確認

イ. 出展・出演関係申込書他手続打合せ

第2回 8月29日(月) 午後7時30分 展示関係 市民会館4・5集会室

第3回 9月 5日(月) 午後7時30分 演示関係 市民会館4・5集会室

第4回 10月19日(水) 午後7時30分 合同最終 市民会館4・5集会室

(1) 実施内容

63年度参加団体	演 示	70 団体	行政関係	3 団体
	展 示	55 団体	行政関係	4 団体、個人 8人
	計	140 団体、個人		
○ 期間中の一般観客	延 約	5,000 人		

3. 成 人 式

(1) 趣 旨

市民が新たに社会の仲間入りをする成人者を祝い、励まし、成人者が改めて成人する意味・意義を確認し合う場とし、また今後は、社会の担い手として、独立した主体者として生活して行くための機会とする。

(2) 主 催

福生市、福生市教育委員会

(3) 期日、場所

平成元年1月15日 午前10時30分 福生市民会館大ホール

(4) 実施内容

式 典 開式、君が代、主催者あいさつ

祝辞、来賓紹介、主催者紹介、祝電披露、謝辞、閉式

二 部 コーラス 福生市音楽愛好者連絡会（コールコスモス）
ブラスバンド 福生市立福生第二中学校ブラスバンド部

成人者	925 人	出席者	523 人
-----	-------	-----	-------

男	455 人	男	238 人
---	-------	---	-------

女	470 人	女	285 人
---	-------	---	-------

出席率	57%
-----	-----

4. 委員会活動

社会教育委員会

社会教育委員制度は、社会教育法に基づいて設置された市民参加の形態であり、当市は昭和37年以来、任期2年、定数10名以内で構成されています。本委員会では社会教育全般にわたる調査、研究、計画の立案、教育委員会からの諮問に答える答申を教育長を通じて教育委員会に市民の立場から行う諮問機関です。

昭和63年度のうごき

(1) 会議開催状況

開催日	会場	会議名	内容
昭和63年4月	市民体育館 多摩社会教育会館	社会教育委員会 社会教育委員 連絡協議会	・昭和63年度社会教育計画・予算について ・定期総会及び理事会 昭和62年度事業報告 他
5月	市民体育館	社会教育委員会	・社会教育関係団体の補助金について
7月	羽村町コミュニティ センター 稲城市消防署	社会教育委員 連絡協議会 社会教育委員 連絡協議会	・第一ブロック研修会準備会 研修会の日程等について ・理事会 ブロック研修、全体研修について 他
8月	羽村町役場	社会教育委員 連絡協議会	・第一ブロック研修会 テーマ「社会教育の諸条件を 整えるために」
10月	商工会館 神奈川県民ホール	社会教育委員会 全国社会教育 研究大会	・正副議長の選出 他 ・テーマ「人生80年時代の生涯教育を 考える」
11月	市民体育館 稲城市中央文化 センター 静岡県	社会教育委員会 社会教育委員 連絡協議会 社会教育委員 視察研修	・昭和64年度社会教育計画(案)について 他 ・全体研修会 テーマ「生涯教育構想と社会教育」 ・掛川市役所、東海大海洋研究所 他
12月	市民体育館	社会教育委員会	・生涯教育について 他
1月	市民体育館	社会教育委員会	・市長との懇親会について 他
2月	商工会館	市長との懇親会	・生涯教育について 市政について

5. 文化財保護事業

文化財保護行政の役割は、文化財を文化遺産として後世に伝えるという保存事業と文化財保護思想の普及、文化的向上に資するための資料として活用するという活用事業に分けることができる。本市では、昭和48年に文化財保護条例の制定、そして昭和54年の改正によって保護行政の充実と強化をはかった。現在、16件1835点の文化財を市指定文化財として保護するとともに、他の文化財については文化財総合調査を行い、所在の確認と記録の作成を行った。

文化財、自然の保護は、市民一人一人の保護意識が高揚してはじめて成果のあがるものであることから、意識の高揚と文化財を活用するための様々な学習の機会の設定に取り組み、実施した。今後、益々進行すると思われる地域の都市化、及び生活様式の変化にともなう文化財の消失等に対処するため、文化財総合調査を早急に実施し、重要なものを市指定文化財として保護するとともに、資料の収集と保存をあわせて実施している。

文化財事業方針

- ① 市内の貴重な文化遺産を市文化財指定して保護する。
- ② 文化財総合調査の実施により所在の確認と記録の作成を行う。
- ③ 調査の成果は、報告書等によって公表し、市民の学習、研究活動等に活用する。
- ④ 市民の文化財、自然に対する学習の機会を保障する。
- ⑤ 市民の文化財、自然に対する保護、活用等の活動に対し、奨励、援助、指導等を行う。
- ⑥ 破壊、消失されつつある文化財を収集し保存する。
- ⑦ 郷土資料室において文化財、自然の保護、保存、活用等のための普及事業を実施する。
- ⑧ 行政事務担当における事務等の整備、確立をはかる。

郷土資料室の事業

市立中央図書館内郷土資料室で文化財、自然の保護と活用を目的とした次の事業を行った。

- ① 資料の収集
- ② 資料の整理・保管
- ③ 資料の調査・研究
- ④ 資料の展示・教育普及

文化財保護事業の実施状況

① 文化財総合調査事業の実施状況

(ア) 植物調査

市内に現存する植物種を確認し、福生市における植物相を明らかにすることを目的に昭和49年度から実施している調査である。すでに樹木・竹類・草木類・シダ・コケ類については調査が終了し、昭和63年度からはキノコ類の調査を行っている。調査回数は6月4日から11月5日までの全4回である。

- ・主任調査員 宮岡一雄（市文化財保護審議会委員、明治大学教授）
- ・調査員 遠藤宇一郎、鈴木 和子、鈴木 由告、安川 和幸

(イ) 古民家調査

市指定有形文化財、藤雲嶺画「牛浜出水図」1巻（渡辺治衛氏所蔵）は、安政6年に市内の牛浜集落を襲った豪雨による水害の惨状を後世に伝える目的をもって描かれたものである。絵図は、現在のJR青梅線と牛浜駅近くで交差する街道、五日市道付近より西に道をたどること約480メートル（4町26間）における江戸道筋の大洪水の出水状況を描いた鳥かん絵図で、集落の家並みが主屋のみならず付属建物に至るまで詳細に描かれている。

調査は、絵図に描かれた農家14軒、商家7軒、借家2軒、空家1軒、その他1軒、合計25軒、他に馬立場、地藏堂、小祀、物置、納屋、薪小屋、便所、土蔵などを建築史にてらして復元考察を加え、一棟ずつの平面図、立面図を製作したものである。

- ・主任調査員 山崎 弘（工学院大学教授）

(ウ) 民具調査

郷土資料室で収蔵している民具の調査を主として行っているが、当年度においては、昨年度、農耕用民具の中で鍛造によって製造された民具の調査を行い、併せて、現在も鍛冶屋を営み製作されている方に民具の製作を依頼し、製作工程の調査と原材料から製品として完成するまでの間の各工程の見本を製作していただき、調査結果のまとめを行った。

- ・調査員 増田昭子（日本民俗学会会員）、岡部悦子（郷土資料室臨時職員）

(エ) 森田文庫調査

森田文庫調査は、昭和59年度より三年計画で調査を実施し、61年度に終了した。調査の結果は翌62年度に文化財総合調査報告書第20集『森田文庫資料目録』として刊行したが、調査後、まだ未調査の資料があることが判明したため、第二次調査として当年度より実施した調査である。

当年度行った調査は、和書類の目録作成である。

- ・調査員 安田吉人、本間正幸、浅野 聡、本間也寸志、妹尾昌典、宇田哲雄（成城大学）

(4) 古文書調査

古文書調査は、既に『福生市文書目録Ⅰ』（総合調査報告書第4集）を昭和50年度に、『福生市文書目録Ⅱ』（総合調査報告書第18集）を昭和59年度に刊行しており、いわゆる文献史料調査は大体において終了している。当年度は、先年実施した石造遺物調査で所在の明らかになったもののなかで金石文として調査をする必要のある資料の筆写及び判読の調査を行った。調査の結果は、当年度に刊行した文化財総合調査報告書第21集『石造遺物調査報告書』に掲載した。

- ・調査員 立川愛雄、島田宇一（市文化財保護審議会委員）

(5) 動物調査（昆虫調査）

市内に現存する昆虫種を確認し、福生市における昆虫相およびその分布を明らかにすることを目的として、昭和61年度より実施した調査である。但し、昭和61年度は本調査開始にあたっての準備期間としたため、実質的な調査は昭和62年度から開始した。調査回数は4月9日から3月18日までの全23回である。

- ・主任調査員 栗原 仁（市内小学校教諭）

- ・調査員 遠藤宇一郎、大村信一、鈴木和子、鈴木由告、松原邦宣

(6) 埋蔵文化財緊急発掘調査

A 長沢遺跡

埋蔵文化財包蔵地、長沢遺跡内での土木工事（集合住宅）に伴う確認調査を実施した。

- ・確認調査地番 福生市大字福生字奈賀1062-1
- ・開 発 面 積 252.15㎡
- ・確認調査期間 昭和63年4月18日より4月25日まで
- ・発掘担当者 和田 哲（立川女子高校教諭）
- ・調査員 森田安彦、山下哲也、栗原伸好、宇田川浩一、高木美由紀
- ・調査補佐員 福生市シルバー事業団

B 8号遺跡

埋蔵文化財包蔵地、8号遺跡内での土木工事（個人住宅の増築）に伴う確認調査を実施した。

・確認調査地番 福生市武蔵野台1-19-1

・開発面積 71.87㎡

・確認調査期間 昭和63年12月2日

・発掘担当者 和田 哲

・調査補佐員 福生市シルバー事業団

② 調査報告書の刊行

(ア) 文化財総合調査報告書第21集『石造遺物調査報告書』の発行

昭和55年度より60年度まで実施した石造遺物調査の結果をまとめたものである。所収した石造遺物は141点、内訳は、庚申塔13点、馬頭観音塔13点、道しるべ3点、水神塔3点、寒念仏供養塔3点、筆子塔及び寺子屋師匠の墓石7点、三界万霊塔及び万霊塔13点、民間信仰及び神道関係の石塔14点、仏教関係の石塔8点、記念碑8点、その他である。発行冊数は1000部である。

(イ) 史跡案内マップ（福生市史跡案内）の発行

史跡案内マップは、かねてより市民等から発行の要望が強かった刊行物であるが当年度に発行することができた。A2、両面カラー印刷、5000部発行。

③ 郷土資料室の運営事業

(ア) 資料の収集

市広報紙（郷土資料室だより）による協力の呼び掛け等によって民俗資料等の収集を行った。

A 収蔵件数（寄贈、採集、購入等）

・民俗資料	} 144件
・文芸資料	

(イ) 資料の保管

郷土資料室内収蔵庫（第1、第2）の薰蒸消毒を行った。実施期間は平成元年3月1日より3月4日までの間、業者委託による。消毒の概要は次のとおりである。

場 所 郷土資料室第1収蔵庫（320㎡）、第2収蔵庫（92㎡）

対象資料 民俗、歴史、美術、自然資料

方 法 エキボシ（酸化エチレン14パーセント、臭化メチル86パーセント）によるガス化薰蒸消毒 くん蒸消毒時間 48時間

目 的 殺虫、殺菌、殺卵

消毒効果 終了後の財団法人文化財虫害研究所による薰蒸処理効果判定の結果は殺虫、殺卵、殺カビ効果は100パーセントであった。

(ウ) 展示、講座等、教育普及事業

A 特別企画展示

テーマ “多摩の日記展” 期間 昭和63年10月15日～11月14日

福生市及び周辺多摩地域の江戸時代より明治期に作成された日記等、38点を展示した。日本では、特に江戸時代以降様々な階層の人々によって日記が多量に作成され現存している。このようにたくさんの日記が作られ、現在に伝わっているのは世界でも稀で、わが国の歴史史料の特色のひとつともいわれている。多摩地域でも非常に多くの日記が地域史研究の史料の一つとして注目され研究者に活用されているが、最近では、専門の研究者に限らず、地域住民の手で発掘され、さらに読解され、史料集として住民の共有の文化財、歴史史料となっている。郷土資料室では、このように多量にしかも長期にわたって書き綴られた日記の文化財としての価値の高さに注目し、展示を企画した。

展示資料 (1) 伊勢道中日記帳(安政4年) (野島茂雄氏所蔵)

(2) 伊勢神宮御師久保倉大夫書状 (野島茂雄氏所蔵)

(3) 燈籠講道中独案内図 (野島茂雄氏所蔵)

(4) 伊勢参宮案内略図 (野島茂雄氏所蔵)

(5) 道中独案内図(寛政4年) (野島茂雄氏所蔵)

(6) 高野山絵図 (野島茂雄氏所蔵)

(7) 公私附込之日記(天明4年) (石川弥八郎氏所蔵)

(8) 日光御社参御用勤役日記(安永5年) (石川弥八郎氏所蔵)

(9) 朝鮮通信使来朝帰国御用中日記(宝暦14年) (石川弥八郎氏所蔵)

(10) 玉川鮎御用中日記(天明4年) (石川弥八郎氏所蔵)

(11) 信州坂部道中日記帳一番帳(寛政7～8年) (石川元八氏所蔵)

(12) 信州坂部村御用木日記帳四番帳(寛政8年) (石川元八氏所蔵)

(13) 常州蚕影山筑波山かしま道中記(文政5年) (石川元八氏所蔵)

(14) 日光道中松山佐野通(文政5年) (石川元八氏所蔵)

(15) 日光山御社参入用之覚帳(安永5年) (石川元八氏所蔵)

(16) 日光参詣御社参寄人馬之触次請証文(安永5年) (石川元八氏所蔵)

- ⑴ 日光山諸所案内手引草（天保11年）（石川元八氏所蔵）
- ⑵ 参宮銭別受覚帳（寛政10年）（石川元八氏所蔵）
- ⑶ 箱根足之湯湯治通行手形（文政3年）（石川元八氏所蔵）
- ⑷ 森田浩一日記（明治30年、36年～39年、大正7年）（森田豊氏所蔵）
- ⑸ 森田浩一絵日記（明治41年）（森田豊氏所蔵）
- ⑹ 成田山鹿島道中記（嘉永7年）（森田豊氏所蔵）
- ⑺ 鹿島道中案内記（天保12年）（森田豊氏所蔵）
- ⑻ 日記帳（天保14年）（森田豊氏所蔵）
- ⑼ 伊勢参宮銭別帳（弘化3年）（森田豊氏所蔵）
- ⑽ 御上洛御供中日誌（文久3年）（森田豊氏所蔵）
- ⑾ 木銭米代請取帳（慶応3年）（森田豊氏所蔵）
- ⑿ 福生第一国民学校防空日誌（昭和19年～20年）（郷土資料室所蔵）
- ⓫ 宇田牛五郎日記（明治19年～大正2年）（宇田哲氏所蔵）
- ⓬ 黒山儀三郎日記（安政6年～明治41年）（黒山儀一郎氏所蔵）
- 石川兵左衛門日記（弘化3年～明治7年）（石川尚志氏所蔵）
- 指田家日記（文化2年～明治25年）（新宿区歴史博物館所蔵）
- 五十子敬斎日記（明治26年～昭和3年）（日野市史編纂室所蔵）
- 小島家日記（天保7年～大正10年）（小島政孝氏所蔵）
- 比留間七重郎日記（安政6年～明治20年）（比留間一郎氏所蔵）
- 比留間雄亮日記（明治22年～33年）（比留間一郎氏所蔵）
- 公私日記（天保8年～安政4年）（鈴木清氏所蔵）
- 佐藤正憲晴雨日記（弘化2年～明治12年）（佐藤正心氏所蔵）

B 特別展示

- a テーマ “化石展” 期間 昭和63年7月22日～9月16日

夏休み期間中ということもあり、子供が興味をもちやすい展示内容ということから古生物＝化石をテーマに、「石になった生物たち」のサブタイトルで展示を行った。展示資料は南米ボリビア産の三葉虫、腕足類等の化石23種および秋川流域産のステゴドン象臼歯、ウミユリ、クモヒトデの化石等11種の合計約100点。また、三葉虫の生態、古生代・中生代の秋川流域・ボリビアの様子など10枚のパネルを使って解説をした。

b テーマ “ボタニカルアート展” 期間 昭和63年9月21日～10月9日

日常気に止めることもないような雑草たちも、じっくり観察するとそれぞれに趣のある美しさをもつものである。これらの野草の美しさを知ることにより、植物への関心を喚起してもらうため、62年度事業「初心者植物画講座」受講者による自主サークル「SASAの会」の資料提供により、福生市の夏の野草を中心に植物画21点を展示した。また、とりあげた植物の市内における分布をパネル表示し、あわせて生態の解説もおこなった。出展資料は次のとおりである。

ドクダミ・ミクリ・ナンバンギセル・オケラ・ヤマユリ・ヨメナ・マルバアサガオ・ノカンゾウ・スイカズラ・ウマノスズクサ・コマツナギ・ナンテンハギ・ミヤコグサ・オオバギボウシ・ガマ・ツリガネニンジン・コヒルガオ・オオアワダチソウ・ウツボグサ・タカトウダイ・キクイモ

C 常設展示

テーマ “福生の成り立ちと人々の歩み”

期間 昭和63年4月1日～平成元年3月31日

昭和54年4月の開館以来、常設展示のテーマは“福生市の成り立ちと人々の歩み”である。この展示主題のもとに三つの分野別テーマを設け全体を構成している。各分野のテーマは、歴史分野が“福生の成り立ちと歴史を学ぼう”、民俗分野が“福生の民俗とくらしを学ぼう”、自然分野が“多摩川の自然を学ぼう”である。常設展示は小・中学生対象に設定しており、展示スペースが大テーマに比して狭少であることから、各分野の展示テーマは“……学ぼう”“……さぐる”“……観察しよう”といった問題設定の形式を取り、観覧者の関心を呼び起こすことをねらいとしている。

D 講座、学習会

a 古文書学習会（初心者） 期間 5月13日～3月3日（全10回・夜間）

江戸時代の福生村と熊川村の様相を古文書をとおして学習し、参加者の積極的な地域史発掘への取り組みを促すことを目的として実施した。当年度は、「村の犯科帳」をテーマとして、村内で起きた事件を通して、農民のくらしと、村の社会組織、支配の仕組みなどについて学習した。

・指導 福生古文書研究会

b 古文書学習会（上級者） 期間 4月15日～2月17日（全10回・夜間）

前回までの初心者古文書学習会参加者の中で、引き続き古文書学習を希望する方を対象とした学習会を実施した。初心者学習会の読解史料がいわゆる公文書を用いているのに対し、私文書である江戸時代の書簡を読解した。

・指導 福生古文書研究会

c 第二回植物画講座・初心者（婦人セミナー）

期間 4月28日～6月16日（全5回）

植物画を描くことをとおして自然観察の眼を養うことを目的に、婦人を対象として実施した。時間帯は期間中の毎木曜日午前10時から正午まで。本来ならば趣旨にそって屋外で野草を描くべきであるが、初心者が対象であることから基礎技術の習得に専念すべく、全回を通じて屋内で、切り花を教材に用いて行った。

・講師 佐藤廣喜（植物画家 日本ボタニカルアート協会委員）

d 植物画講座・中級者（婦人セミナー） 7月14日～8月18日（全5回）

昭和62・63年度の二回にわたり実施した、初心者植物画講座の受講者を対象として、市内の野草を植物画として記録にのこせる程度にまで技術を高めるために実施した。日程は期間中の木曜日、午前10時から正午までであるが、全5回中3回を講師指導日とし、のこりの2回は自主練習日とした。

・講師 佐藤廣喜（植物画家 日本ボタニカルアート協会委員）

e 民俗学講座・多摩の口承文芸（婦人セミナー） 7月6日～8月3日（全4回）

多摩地域にのこる昔話を口承文芸としてとらえ、その意義や背景について次の内容を学習した。

・口承文芸について ・昔話、伝説、世間話 ・口承文芸の調査にあたって ・分類について ・口承文芸と再話 ・多摩地方の口承文芸の調査 ・昔話 ・世間話 ・世間話の分類 ・多摩に多い世間話 ・伝説 ・伝説の分類 ・弘法大師伝説 ・年中行事と伝説 ・作物禁忌と伝説

・講師 増田昭子氏

f 郷土史シンポジウム・日記と地域史研究 11月5日

特別企画展「多摩の日記」開催にあわせてシンポジウムを開催した。多摩地域の歴史を研究し特に、地域史史料としての日記に注目して地域史の掘り起こしに成果をあげている研究者及び研究会の方々をパネラーとして、日記をどのように地域史研究に用いているか、

また、どのような活用が考えられるか、等について発表していただき、参加者にも討論に加わっていただき日記と地域史研究について語りあった。

・司 会 新井勝紘氏（福生市文化財保護審議会委員）

・パネラー 高崎勇作氏（福生古文書研究会）

増田淑美氏（公私日記研究会）

石井道郎氏（五日市古文書研究会）

肥留間一郎氏（多摩市文化財保護審議会委員）

飯田俊郎氏（小島日記研究会）

多仁照広氏（多摩川流域史研究会）

g 夏休み郷土学習会・多摩の自然と歴史

(1) 多摩の自然……化石の秘密をさぐろう 7月22日

特別展「化石展」が開催されていることから、化石の学習をととして古生物およびそれらの生息していた時代の学習することを目的とした。「化石展」の展示資料を紹介しながら1時間の事前学習を行い、その後化石の産地である五日市町三つ合鍾乳洞での化石の採集、秋川流域産の化石を多数展示している五日市町郷土館の見学を行った。

・講 師 鈴木由告（郷土資料室臨時職員）

(2) 多摩の歴史……縄文時代の秘密をさぐろう 7月25日

縄文時代の遺跡発掘現場の出土遺物、復元住居等の見学によって、縄文人の生活様式や遺跡保護の必要性の理解を目的とした。見学地は多摩埋蔵文化センター、羽村町精進バケ遺跡。

・講 師 森田安彦（羽村町遺跡調査会主任調査員）

h 郷土史講演会・江戸時代の民家形式 9月3日（夜間）

八王子市宇津木台遺跡調査で江戸時代の村落跡が調査された。発掘された民家跡は現在、私達が理解している民家の形式について再考を促す資料を提供した。多摩地域で発掘調査された幾つかの近世村落跡から判明した江戸時代の民家形式について学習した。

・講 師 渋江芳広氏（日本考古学協会会員）

i 郷土史講演会・献上鮎と漁場争い

江戸時代、多摩川流域の村落が負担した種々の役のひとつに、将軍家へ御菜肴として鮎を献上する御菜鮎上納御用役がある。この役負担は、多摩川の漁場利用関係と密接に

結び付き、度々村落間の漁場争いをひきおこしていた。そのなかのひとつ熊川村と拝島村の争論を取り上げて江戸時代の多摩川と村のくらしの結び付きについて学習した。

・講師 郷土資料室職員

E 出版物

- a 特別企画展解説資料「多摩の日記」（図録、B5、18頁）（解説別冊資料、B5、108頁9）
- b ボタニカルアート展パンフレット
- c 「郷土資料室年報Ⅷ・資料収蔵目録Ⅷ」（B5、60頁）

F 市民、団体、研究者等への情報提供、援助、奨励

文化財の保存と活用に関わる学習、研究等を行っている市民、団体及び研究者等への情報の提供や印刷援助等を行った。

文化財保護審議会

文化財保護審議会は、福生市教育委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議し、並びにこれらの事項について委員会に建議するために8人の委員が委嘱されています。

会議の開催

昭和63年5月14日	昭和63年度の文化財保護事業について 長沢の水神塔の保存について 審議会委員研修の日程等について 文化財登録制度について
6月25日	熊川分水について 博物館建設の建議について 埋蔵文化財包蔵地について
平成元年1月12日	天然記念物の指定について
3月18日	天然記念物の指定について

研修の実施

昭和63年8月23日～24日

群馬県内の史跡及び博物館等の見学

博物館建設の建議

昭和63年6月25日に開催された審議会で、文化財の保存と活用をはかるための市立博物館建設を建議することが決められた。検討の結果、9月1日付の建議文書を9月28日に開催された市教育委員会へ提出した。(別紙建議文書)

(別紙建議文書)

福教社発第449号

昭和63年9月1日

福生市教育委員会委員長

木村 和男 殿

福生市文化財保護審議会

会長 島田宇一

福生市立博物館の建設について(建議)

このことについて、昭和63年6月25日に開催された審議会において、市立博物館を建設し、文化財の保存と活用をはかり、さらに地域文化の創造につとめるべきであるとの結論に達しました。よって、次のとおり建議します。

1. 趣 旨

文化財は、私達が祖先より受け継いだ貴重な文化遺産であり、保存につとめるべきことは、いまさら申すまでもありません。しかし、近年の都市開発にともなう急激な地域の変貌は、景観のみならず貴重な文化財の消失をもたらし、地域の伝統的な生活文化、思想をも変化させています。

現代を生きる私達は、後代の福生市民に良好なかたちで祖先からの文化遺産を継承する役割を負うものでありますが、このような社会状況を目のあたりにするにつれ、非常に危機感をもたざるをえません。

当市においては、昭和55年に福生市立中央図書館を開館し、館内に郷土資料室

を併設して文化財の保存と活用につとめていますが、もとより狭い施設は既に収蔵能力の限界を越え、建築上の規制により増設もならず、このままでは市民の方々の文化財寄贈の申し出もお断りせざるをえない状況にあると聞き及んでいます。

また、中央図書館についても市民の利用率は高く、蔵書は増大の一途をたどり、既に書庫は飽和状態にあると聞いています。

このような状況は、日頃の当市の社会教育行政の努力の賜物であり、誠に喜ばしい限りではあります。しかし、郷土資料室ならびに図書館のますますの発展と向上を考慮するなら、具体的な施設の拡充と建設を計画する必要があると考えます。

文化財保護審議会では、教育委員会より昭和49年5月2日に「文化財の保存及び活用についてはどうあるべきか」の諮問をうけ、昭和50年8月20日に答申をしました。答申文の中に、「教育機関としての郷土博物館の建設と職員の充実」の項を設け、博物館が地域にはたす役割等を述べ、博物館の建設の必要性を訴えました。

ついては、早急に博物館を建設し、文化財の保存につとめるべきであると思います。

2. 博物館を建設するための方策

- (1) 博物館建設計画の策定
- (2) 博物館建設用地の確保

6. 青少年問題協議会

青少年問題協議会は、市長の付属機関であり青少年健全育成に関する総合的施策の樹立について調査審議し、関係行政機関相互の連絡調整を図り、関係行政機関に意見を述べるための組織です。

(1) 昭和63年度のうごき

開催月	会議名	会議の内容
昭和63年4月	理事会	・子供自然観察会について
	地区委員長会	・理事の選出について ・昭和62年度青少年問題協議会のまとめについて ・昭和63年度青少年問題協議会事業計画(案)について ・青少年対策組織について ・家庭の日推進事業について ・地区委員長会感謝状について
7月	理事会	・不健全図書追放運動について
	地区委員長会	・一声運動について
	幹事会	・昭和62年度青少年問題協議会のまとめについて ・昭和63年度青少年問題協議会事業計画(案)について ・善行少年表彰について ・一声運動について
8月	協議会	・昭和62年度青少年問題協議会のまとめについて ・昭和63年度青少年問題協議会事業計画(案)について ・善行少年表彰について ・一声運動について
10月	理事会	・青少協子供運動会について
11月	地区委員長会	・不健全図書追放について ・青少協子供運動会について
平成元年2月	理事会	・青少年問題講演会について
	協議会	・青少年問題講演会 講師 鈴木淳一氏
	地区委員長会	・青少年問題講演会 講師 川合月海氏

(2) 昭和63年度青少年対策事業

① 社会教育課体育館

- ・家庭の日推進事業（毎月第3日曜日）
- ・一声運動（夏休み期間）
- ・不健全図書追放運動
- ・青少年の社会参加活動推進事業（7月17日）
- ・青少協だより発行（5月、8月、12月、3月）
- ・青少年問題講演会

（2月13日	講師	鈴木淳一
2月18日	講師	川合月海
- ・地区委員長会視察研修会（6月8日 赤城少年院 参加者31名）
- ・家庭の日図画作文募集

（夏休み期間	応募作品	図画195点
		作文 8点
- ・青少協子供運動会（12月11日 参加者約500名）
- ・子供自然観察会（8月26日 富士山 参加者 50名）
- ・非行化防止PR用鉛筆、シートの作成
- ・各運動（家庭の日、一声運動、不健全図書追放）のチラシ配布
- ・その他の広報活動（市広報、市のお知らせ、広報車等）
- ・救急法講習会（7月14日 参加者 30名）
- ・水泳教室（4回 参加者116名）
- ・夏休みジュニアスポーツスクール（7月25日～7月27日 参加者23名）
- ・小学生バレーボール、バドミントン教室（年間）

② 市民会館・公民館

- | | |
|------------|----------|
| ・子供サバイバル教室 | ・夏休み工作教室 |
| ・夏休み自然教室 | ・映画会 |

③ 図書館

- ・夏休み子供図書館
- ・映画会

(3) 地域活動への援助

① 補助金

- | | | |
|-------------|------|------------|
| ・地区委員長への補助金 | 33地区 | 1,980,000円 |
| ・青少年の社会参加 | 33地区 | 99,000円 |

② その他の援助

- ・事務的援助（コピー、印刷等）
- ・各種大会等の開催援助（バット、ボール、ベースなどスポーツ備品、レクリエーション、備品貸し出しや会場の確保等）
- ・講演会、研修会等の開催援助（講演会、研修会等の講師の紹介、会場の確保等）

昭和63年度青少年問題地区委員会実績

地区名	委員数	児・ 生徒数	地区活動の主なもの	委員 会数	活動数	計	参 加 延人数	事業費	補助金	その他
熊川住宅	人 7	人 215	ラジオ体操、キャンプ、芋掘り大会等	回 3	回 3	回 6	人 1,075	円 106,544	円 64,400	円 42,144
南	16	77	非行防止パトロール、もちつき大会等	4	7	11	482	131,015	42,320	88,695
内 出	12	186	バーベキュー大会、歩け歩け大会等	4	12	16	858	140,840	59,760	81,080
武蔵野	25	134	ボーリング大会、もちつき大会等	7	15	22	584	293,141	51,440	241,701
福 東	12	330	非行防止パトロール、ハイキング等	10	5	15	317	82,680	82,680	0
南田園1丁目	21	185	球技大会、もちつき大会等	4	16	20	1,289	140,951	59,600	81,351
鍋 1	12	339	ラジオ体操、いも掘り会等	9	7	16	813	94,120	84,120	10,000
鍋 2	24	412	町内パトロール、もちつき大会等	6	15	21	1,453	299,270	95,770	203,500
玉川台	25	32	ラジオ体操、ボーリング大会等	7	10	17	582	41,700	35,120	6,580

地区名	委員数	児・ 生徒数	地区活動の主なもの	委員 会数	活動数	計	参加 延人数	事業費	補助金	その他
富士見台	人 17	人 23	廃品回収、講演会、ボーリング大会等	回 4	回 11	回 15	人 410	円 133,342	円 33,680	円 99,662
福 栄	14	97	ラジオ体操、いも煮会等	5	7	12	1,405	563,500	45,520	517,980
熊 牛	24	305	キャンプ、盆おどり、もちつき大会等	5	7	12	962	398,370	78,680	319,690
南田園3丁目	29	137	どんと焼、もちつき大会等	4	7	11	340	117,872	51,920	65,952
牛 1	22	135	キャンプ、焼いも大会等	5	12	17	453	140,737	51,600	89,137
牛 2	21	247	球技大会、川あそび、ボーリング大会等	5	12	17	2,095	221,700	69,520	152,180
原ヶ谷戸	24	383	地びきあみ大会、カレーライス大会等	9	14	23	1,651	698,274	91,130	607,144
志 茂 1	29	222	早朝歩こう会、川遊び、運動会等	8	19	27	1,513	98,661	65,520	33,141
志 茂 2	26	190	キャンプ、球技大会、スケート大会等	5	17	22	2,146	592,873	60,400	532,473
本 町 1	13	39	親子ハイキング、いも堀り、 クリスマス会等	4	12	16	436	243,199	36,240	206,959

地区名	委員数	児・ 生徒数	地区活動の主なもの	委員 会数	活動数	計	参加 延人数	事業費	補助金	その他
本 町 2	人 17	人 45	球技大会、ラジオ体操、運動会等	回 5	回 14	回 19	人 152	円 176,929	円 37,200	円 139,729
本 町 3	15	50	盆おどり大会、凧上げ大会等	3	11	14	370	138,000	38,000	100,000
中 央	16	34	球技大会、町内パトロール、運動会等	5	12	17	545	509,050	35,440	473,610
本 町 6	23	59	親子ハイキング、川遊び、バス旅行等	4	8	12	571	337,719	39,440	298,279
本 町 7	14	283	盆おどり、親子ふれあい会等	5	7	12	1,188	136,500	75,160	61,340
本町8第1	13	360	球技大会、懇親会、ハイキング等	7	16	23	1,690	673,000	87,450	585,550
本町8第2	26	279	運動会、町内パトロール、 もちつき大会等	8	20	28	2,385	579,475	74,520	504,955
武蔵野台 1 丁目	8	257	飯合すいはん、ラジオ体操、どんと焼等	4	8	12	680	240,585	71,120	169,465
加美平住宅	8	413	ドッチボール大会、青空コンサート等	5	3	8	1,309	297,843	95,920	201,923
永 田	6	112	町内美化、盆おどり、早起き会等	5	18	23	364	183,709	47,920	135,789

地区名	委員数	児・ 生徒数	地区活動の主なもの	委員 会数	活動数	計	参 加 延人数	事業費	補助金	その他
長 沢 1	人 25	人 88	盆おどり大会、早起き会、キャンプ等	回 3	回 11	回 14	人 776	円 220,920	円 44,080	円 176,840
長 沢 2	20	60	盆おどり、キャンプ、運動会等	3	11	14	786	220,920	39,600	181,320
加 美 1	19	66	盆おどり、納涼大会、運動会等	3	8	11	335	104,900	40,560	64,340
加 美 2	18	402	夜間パトロール、ラジオ体操、納涼会等	5	9	14	2,110	312,960	94,170	218,790
合 計	601	6,196		173	364	537	32,125	8,671,299	1,980,000	6,691,299

7. 集会施設の申請状況

扶桑会館申請状況

月別 区分		63年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	元年 1月	2月	3月	合計
集会室	申請件数	35	32	35	30	38	31	32	32	33	29	32	40	399
	人数	1,770	1,426	1,645	1,171	2,267	1,392	1,450	1,350	1,128	1,150	1,300	1,750	17,799
和室	申請件数	18	12	19	18	10	14	21	8	10	10	15	19	174
	人数	282	287	393	466	232	255	483	199	170	245	327	489	3,828
小会議室	申請件数	19	20	29	26	18	26	19	14	11	9	19	21	231
	人数	237	272	342	343	302	345	249	217	122	123	235	307	3,094
合計	申請件数	72	64	83	74	66	71	72	54	54	48	66	80	804
	人数	2,289	1,985	2,380	1,980	2,801	1,992	2,182	1,766	1,420	1,518	1,862	2,546	24,721
使用料	件数	26	39	33	29	33	35	19	16	17	20	23	20	310
	金額	23,200	39,100	41,000	31,200	40,600	43,200	22,600	22,800	19,900	23,200	32,300	24,300	363,400

月平均 67件 2,060人

か え で 会 館 申 請 状 況

月別 区分		63年 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	元年 1 月	2月	3 月	合 計
集 会 室	申 請 件 数	35	42	29	28	30	30	40	42	22	36	36	43	413
	人 数	636	617	494	803	419	523	700	535	321	405	554	621	6,628
和 室	申 請 件 数	22	32	24	17	23	29	29	28	18	26	31	33	312
	人 数	361	534	406	428	291	503	517	401	231	348	487	416	4,923
小 会 議 室	申 請 件 数	7	6	10	5	5	15	9	11	6	8	10	10	102
	人 数	135	107	181	144	62	236	211	105	120	62	97	143	1,603
合	申 請 件 数	64	80	63	50	58	74	78	81	46	70	77	86	827
	人 数	1,132	1,258	1,081	1,375	772	1,262	1,428	1,041	672	815	1,138	1,180	13,154
計	使 用 料													
	件 数	22	28	21	18	23	32	31	32	21	32	32	35	327
	金 額	18,600	22,800	16,500	14,700	19,200	30,000	24,000	23,700	16,200	23,700	24,900	23,700	258,000

月平均 69件 1,096人